

中華人民共和國
全國人民代表大會常務委員會
關於修改《中華人民共和國憲法》的決議

白鬚山東斜面を源流とする植山川と三郷の南斜面に源流を発する上蓮生川が大柄で合流して物部川となり、小の河川を含むせながら、直井川、香川市吉いり、土佐鶴山田から香長平野をつくり、香南市に注ぎ込む。物部川は森林率が95%と緑豊かな渓谷で、豊かで清かに注ぐ溪谷である。

四ツ花旗の花が相似ひ。年々歳く人に同じながら、
いわゆる春節が、春には花はまだ咲く。
しかし、過度剪が進む山里から人の管理が
ひと下じ途切れると、山里の木は増や
管理ができないに至り、山里は汚泥には、
管理び困窮したことほどても困窮して。

物の部が発展の原動力には豊富な山の資源県だった。中で「主流」は木村。
木村(木村庄三)が普及を主導(は主導)して、工具(道具)アソブ・ツールなどの山道具で、どんどん工具(道具)を貸し貸し出していった。工具(道具)は山田や大所の金治屋が、工具(道具)の注文に応じて作っていた。

水がひけなく利用水田を作りました。

昭和20年代(1955年)を境に多くの集落から人が平野部へ流出していき、人口流出と高齢化は農地の放棄につながり、出でいく人は自分の田畠に土を運び、そこにモヤシやナスを植えたりして石垣から大量に水を取って、2つに分けて水を貯蔵したり、さらに谷の水を減らすために水を放棄地に運び、そこで木を植林して山が山里に下りてくるようになってしまった。被曽は農地を見守る者たちも山の生き物との境界が保たれたりとなり、嘗てはより強くなり

山ヒリと海はつながっている。
元気な山がぬるさうござ
元気な川が流れ
元気な海と育んでいいる。

山峰に上り下りに変われる。
峰に迷宮がつまっている。
峰をくぐる、物流の山
峰所をようなく、重きの山
神へたがりわかる信頼の山
峰と歩くと、ほせでか
ここでもしいにこだまる。

A colorful illustration of a landscape featuring green hills, blue water, and various Japanese place names written in orange boxes. The names include '横山川' (Yoko River) at the top right, '守丸' (Shimmaru) in the center, '水の谷' (Mizu no Tani) at the bottom right, '大日寺' (Dainichiji), '男池' (Otoko-ko), and '女池' (Meiko) in the bottom center, and 'いざなみ流' (Izanami-no-Mawari) at the bottom left.

ほんの半世紀前までは山はノックの
春らしいのをもうこうじてあつた。
自然や景観、風土が豊か。信州に
おいても中いかで、山、山、
しがし現在、山の本落(ほんらく)
のようへ山がいなくなっている。
山へくらして生きる。

川に渡りて
山を越えて
水をめぐらす
風の吹く處
はいはいと
歌ふよ。

川の内 (物語) 本流

川口 川口

森林が“壊われに時
川もしまず温水が“水
豪雨の生じ未と運び
ここにもあります。

山に渡りて
川を越えて
水をめぐらす
風の吹く處
はいはいと
歌ふよ。

大河 大河

上島は秋波うさぎ
さかんじだ。た。金糸

聖地として高い評価が
受けられ、多くの参詣客
が毎年訪れる。また、
中津川市は、豊かな自然
環境を活かした観光開発
を行っており、五位ヶ森
などの名所が有名である。

A hand-drawn map of Japan featuring several labels in Japanese:

- Top left: コメツジ (Kometsuji)
- Top center: 西熊山 (Nishi-kumasan)
- Top right: 77
- Middle right: 壱澤の森 (Iseki no mori)
- Bottom right: カンケガ谷 (Kankegaya)
- Bottom center: 磐梯山 (Iwateyama)
- Bottom left: 天狗原 (Tenugoya)
- Bottom center: いよじが天に願が
きもので身立りかれて
いたといつ。
- Bottom right: いよじ
はくら
も標高高い山峰
(Iyozan, Hakura, also high mountain peaks)

奥付高
御内留
むじれい
てあり
木の
川と
草木川と
木行る
木行る

The image shows a vibrant landscape with green hills, blue winding rivers, and a pink label containing Japanese text. The label reads:

一匹鶴のうちには流れゆくもの
何万年も動かさない山。
山といふの物語がある。

山にはいくものの、面倒の山
のことをいふ。大きな石などとあれば、長い
蛇の蔓。大蛇の蔓とも言つし、何うかの常
おそれて造られたことを言つ。

千足郎は一人人に足跡を物うりとされどが、七くなく下場の合、その差半が不完全になつて、卓下のへんにころにかかめ祭ったのがハ面を慕といわれるとしきれま。

雨の日に山の旅館
一滴の水(ずいぶん)の漏(もれ)と
始(はじ)める。谷(たに)を下(くだ)る。川(かわ)と
太陽(たいよう)は、雨(あめ)をかへつける。
この水(みず)の循環(순환)は
たまる水(みず)大(おほ)き太(おほ)い川(かわ)だ。

A colorful illustration of a lion sitting in a chair, holding a book titled "森林の秘密" (Secrets of the Forest). The background features stylized green trees and blue winding paths.

木地師
木地師の昔から、山の谷に木地師の村と呼ばれていた。木地師は、木を伐採して山の谷に運び、木の加工場を作り、木の道具などを製造する職業である。木地師の村は、木の伐採によって森林が減少し、土砂災害が頻発するようになった。また、木地師の活動によって、山の生態系が破壊され、生物多様性が減少する問題も発生した。現在では、木地師の活動はほとんど見られなくなっている。